

福原学園 第3次中期経営計画
(2019年度～2023年度 5ヵ年計画)

I. 学園のミッション

建学の精神「自律処行（自らの良心に従い、事に処し善を行う）」に基づいた教育活動を行う。

II. 学園の基本ビジョン

—学生・生徒・園児・保護者が満足する教育サービス体制の確立—

福原学園の目標：

- 設置校相互の連携を強力に推進し、財政基盤を安定させ、永続的な学園運営を行う
- 視覚経営資源を豊かにし、充実した教育・社会活動を行うことによって、社会の信用を獲得する
- 各設置校の独立性をもった教育活動、運営の実践ならびに設置校相互の連携を強力に推進し、財政基盤を安定化させることによって、永続的な学園運営を行う

III. 経営基本方針

学園全体を「経営体（大学事業・高等学校事業・幼稚園事業・管理部門）」と捉え、自らが学園の基本ビジョンを達成するために、各事業の事業方針、基本目標を明確に示し、活動結果の点検を可視化できるように評価指標を設定して取り組む。

収容定員を安定的に充足することで経営資源を豊かにし、経営方針に沿った各事業の戦略展開で充実した教育・社会活動を行い、社会の信用を獲得する。

本学園は今日まで、建学の精神「自律処行」を基盤として、知性を高め、徳性を高め、情操豊かな調和のとれた人間の育成を目指し受け継がれてきた。

今後、私学を取り巻く厳しい環境下において、学園のミッションである建学の精神に基づいた教育活動を各設置校が独立性をもって実践する。さらに設置校相互の連携を強力に推進することで、地域を主体とした志願者の増加、財政基盤の安定化を実現させ、地域に根差した教育機関として学園運営を永続的に行う。

1. ステークホルダーの満足度向上戦略の実践

学園のステークホルダーを学生・生徒・園児・保護者・卒業生・企業・地域・教職員として、それぞれの満足が向上する戦略を強力に遂行する。ステークホルダーが学園に対して求める価値を十分に把握し、同時に学園が達成すべき成果を見極め、個々の実行プランを掲げる。

特に最重要ステークホルダーである学生・生徒・園児の卒業、卒園における満足度の向上を重要項目とし、学生・生徒においては、キャリア教育およびキャリア支援の充実により、学修成果が実社会で実感できるようにする。

【ステークホルダーが求める満足】

- | | | |
|------------------------|---|----------------|
| ①学生・生徒・園児（最重要ステークホルダー） | … | 「設置校での在学・在園満足」 |
| ②保護者・卒業生 | … | 「卒業後の就職満足」 |
| ③同業他法人・官公庁・企業 | … | 「社会への研究寄与満足」 |
| ④地域 | … | 「地域での存在満足」 |
| ⑤理事・教職員 | … | 「学園での就業満足」 |

2. 収容定員の安定的な充足

現在の収容定員は収支均衡を図るうえで必要最小限の定数であり、収容定員の充足は最重要目標である。教育機関を取り巻く環境は、少子化問題や増え続ける大学数等により、厳しさを増すばかりである。

このような環境下において収容定員を安定的に充足するため、大学事業では、教育組織の改革に取り組み教育システムを向上させ、教育組織と連携した学生支援体制を構築し、学生が学修や学生生活に専心して自らの成長を実感できる体制を構築する等、教育の質の向上を図る。また、共同実施制度に基づく大学院構想により研究科専攻の設置の推進、学部・学科の改組転換を実行する。

高校事業では高校運営を軸とした中・高教育を拡充し、幼稚園事業においては幼稚園運営の抜本的見直しを実行する。

各事業が学園資源を最大限に活用し、本学園のブランドを創出する戦略を展開することで、学生・生徒・園児の募集活動を強化する。

3. アクティブな戦略展開を支える組織力の強化

第2次中期計画における成果指標を掲げた取り組みを継続し、計画の進捗状況、成果目標に対する達成度が定量的に把握できる組織体制を構築する。

各事業が事業方針に基づく成果目標を設定することで、目指すべき位置を教職員全員が共有し、実績値との差異により現状との乖離を正確に認識する。また、定期的に点検することで目標に対する進捗度や進捗速度を認知し、未達成に終わらせないための速やかな軌道修正を行い、進捗の遅れを取り戻して目標達成を実現する。そのため、戦略展開が客観的に点検、評価でき、成果目標に対する達成を支援できるチェック機能を有した組織力の強化を図る。

4. 重点項目

- (1) 大学事業を学園のコア（核となる）事業に位置付ける。

大学・短大事業は、学園全体収入（事業活動収入）の75%を占めており、財政規模において主要な教育事業であることから、学園の核となるコア事業に位置付け、学生数の拡大に取り組む。

- (2) 高校運営を軸とした中・高教育を拡充する。

高校事業は、福原高等学院の開校以来、学園の中核に位置付けられ、中等教育における自ら学び、自ら考える力の育成のために大きな役割を担う教育事業であることから、自由ヶ丘高等学校の運営を中・高教育に視野を拡大し、あわせて定員充足および国公立大学への進路実績の向上を図る。

(3) 認定こども園への転換等により全幼稚園の収支均衡を図る。

附属幼稚園それぞれの特質、地域性、保護者ニーズを的確に捉え、認定こども園への移行検討を含めた取り組みにより、各園の事業活動収支における均衡を図る。

本中期経営計画の完成年度には、各事業方針から打ち出される実行プランの実践と管理運営、財政基盤安定化の取り組みにより「ステークホルダーの満足度向上」「収容定員の安定的な充足」「アクティブな戦略展開を支える組織力の強化」の実現を果たし、自律処行の精神を体現する教育活動、運営を実践し、志願者を増加させることで財政基盤を安定させ、永続的に学校運営できる学園を目指す。

また、目標の達成や財務状況の改善は、賞与支給率の向上や福利厚生の実施等、教職員への還元原資として扱い、学園での就業満足度を向上させる。

IV. 基本目標・事業方針…「福原学園 第3次中期経営計画（2019年度～2023年度）所属別行動計画ツリー図」

学園全体を経営体と捉えた中で、各事業における重点取組課題を抽出し、課題を克服する具体的な手立て、改善到達の目標を事業方針として明確に打ち出す必要がある。18歳人口は2020年頃までほぼ横ばいで推移するが、その後、減少することが予測されており、大学進学率は、ここ数年頭打ちの状態で大規模な大学淘汰の時代を迎える。初等教育、中等教育では人口の減少から、すでに学校数が減少傾向で推移している。このような教育界の現状において、地域に貢献することで地域との共存共栄を図りながら、本学園の教育サービスに係る商品力を強化し、競合する教育機関との特色の違いを際立たせることで、学生、生徒、園児数の確保・拡大に繋げることが求められる。

学園にとって財政基盤の安定化は必要不可欠であり、過当競争が顕在化する教育界の現状のなかで、生き残りをかけた事業別の基本目標・事業方針を掲げる。

1. 大学事業…詳細「第3次所属別行動計画 九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学」

【方針1】教育研究活動を充実する。

九州共立大学は、職業人養成教育大学として、資格・免許取得を学修成果とし、学生の質に応じた教育活動を展開するとともに、教育活動に基づく研究を展開する。

九州女子大学・九州女子短期大学は、学生への丁寧な教育と質の高い教育活動を行い、地域社会の核となる実践教育を展開するとともに、教育活動に基づく研究を展開する。

【方針1】に対する業務・事業および具体的施策

1. 特色ある教育研究活動構築の強化
 - 1) 大学教育の質の向上
 - 2) 免許・資格取得支援の強化
 - 3) 教育活動に基づいた研究活動の強化
2. 学修成果を重視した教育課程の構築
 - 4) 授業科目に係る体系性の構築
 - 5) 学修支援の強化

【方針 2】 学生支援を充実する。

九州共立大学は、教職員と学生とのコミュニケーションの活性化を図るとともに学生支援体制を充実し、学生の満足度を向上させる。

九州女子大学・九州女子短期大学は、社会で通用する汎用的能力の強化を図るとともに多様化したニーズに対しての学生サービスを提供し、学生の満足度を向上させる。

【方針 2】 に対する業務・事業および具体的施策

3. キャリア支援の強化
 - 6) キャリア形成支援プログラムの充実
 - 7) 卒業生ネットワークの構築
4. 国際交流システムの構築
 - 8) グローバル化への対応の強化
 - 9) 海外協定校との連携の充実

【方針 3】 大学運営を充実する。

教育研究部門と管理運営部門との協働体制を確立し、効果的な組織運営を行い、組織の活性化を図る。

【方針 3】 に対する業務・事業および具体的施策

5. 広報活動の強化
 - 10) 学生募集・広報の充実
 - 11) 高大連携の促進
 - 12) 学力の3要素を踏まえた入試制度改革の促進
6. 運営組織体制の強化
 - 13) 他の国内大学との連携の強化
 - 14) 地域連携・産学連携の強化
 - 15) FD・SDの強化

自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動し、知識基盤社会で活躍し得る教養と課題追求力・総合的判断能力・問題処理能力を併せ持つ真摯な学生を養成、ならびに社会の期待に応えられる基礎的・汎用的能力を併せ持つ、強くてしなやかな女性を育成する。

社会に適応できる自立した職業人を養成し、地域に根差した実践教育を展開する大学を目指す。

2. 高等学校事業…詳細「第3次所属別行動計画 自由ヶ丘高等学校」

【方針1】教育活動を充実する。

生徒一人一人に対して、充実した教育活動を実施し、各クラス・コースの学力の向上を図り、受験対策指導の強化を推進する。

【方針1】に対する業務・事業および具体的施策

1. 学力の向上
 - 1) 授業内容の充実
 - 2) 教科指導力の向上
2. 受験対策指導の強化
 - 3) 難関国公立大学合格への教育指導内容の充実
 - 4) 国公立大学合格実績の向上

【方針2】生徒支援を充実する。

学校行事や部活動の活性化を図るとともに、キャリア教育をとおして生徒支援を推進する。

【方針2】に対する業務・事業および具体的施策

3. キャリア教育の充実
 - 5) LCP（リバティキャリアプラン）の充実
4. 特別活動・部活動の活性化
 - 6) 学校行事の充実
 - 7) 部活動の充実

【方針3】高校運営を強化する。

志願者および入学定員の確保を目指した募集広報活動の展開と、組織の活性化を図り、地域に根差した魅力ある学校づくりを推進する。

【方針3】に対する業務・事業および具体的施策

5. 戦略的募集広報活動の推進
 - 8) 中学校・塾への募集広報活動の強化
 - 9) オープンスクールの活性化とホームページの活用
6. 地域貢献活動、高大連携の推進
 - 10) 地域貢献、ボランティア活動の充実
 - 11) 高大連携の推進

「人間開発」「学力開発」を基軸とし、知（健やかな学力）・徳（豊かな人間性）・体（健康な体力）の調和のとれた豊かな人間性を養い、規律・勤労・礼儀を体得し、社会を生き抜くことのできる人材を育成する。

すべての生徒一人ひとりのために教育を行う高校を目指す。

3. 幼稚園事業…詳細「第3次所属別行動計画 附属幼稚園」

【方針1】保育内容を充実する。

建学の精神（自律処行）に基づき、人間形成の基礎を培う保育を展開する。

【方針1】に対する業務・事業および具体的施策

- 1) 幼稚園教育の質の向上
- 2) 園の特色を活かした教育課程の編成

【方針2】大学・地域との連携を強化する。

幼稚園の教育力向上を目指し、大学・地域との連携を図り、地域に支持される幼稚園を構築する。

【方針2】に対する業務・事業および具体的施策

- 3) 学園設置大学との連携の強化
- 4) 地域との交流の推進

【方針3】幼稚園運営を強化する。

信頼される園を構築するため、園児の安定確保策を立案し、組織の活性化を図る。

【方針3】に対する業務・事業および具体的施策

- 5) 園児募集・広報の強化
- 6) 安全対策の徹底

義務教育およびその後の教育の基礎を培い、心身ともに健やかな幼児を育成する。
健全な幼児教育を行う幼稚園を目指す。

以上